

令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立

小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の６年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」の領域は、良好な状況にある。「読むこと」（記述すること）に課題がある。
	よくできた問題	話し手が伝えたいことの中心を捉えること、またそれを比較しながら自分の考えをまとめること
	努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使うこと、文章を読んで自分の考えをまとめ記述すること、文の中心を探して要約すること
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」は概ね良好にある。「データの活用」「変化と関係」の領域に課題がある。
	よくできた問題	乗法の計算 加法と乗法の混合計算 分配法則を取り入れた計算
	努力が必要な問題	百分率が表された割合 グラフの読み取り 二次元の表から条件に合致の読み取り

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・単学級で人間関係（友達関係）がある程度確立している。 ・「人が困っているときに進んで助けたい」とほぼ全員が考えている。 ・学校生活をよりよくするため、解決に向けて話し合うことに前向きである。考えを広め、深めていこうとする姿勢がうかがえる。 ・「人の役に立つ人間になりたい。」と思っており、そのために何をしなければいけないか、努力すべきことは何かを模索している。 ・タブレットPCの活用頻度が、少しずつ上がっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・朝自習で、国語（漢字）算数（ドリル）ドリルアプリの日を設定し、基礎基本の習熟と学力の定着を図る。
- ・学習全般で、タブレットPCの活用を目指す。また、タブレットPCや学校図書館の活用等で、時事についての関心を持たせるとともに、語彙を増やし、社会事象に対する自分の考えをしっかりと持たせるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・挨拶を増やす取組や掲示をし、進んで挨拶をする習慣を身に付けさせる。
- ・継続的に自主学習ノートの取組を進めることで、家庭での学習の質の向上をめざす。
- ・児童の自尊感情のさらなる高まりを目指すため、学年だより、懇談会等で児童の頑張りや学校で目指していることを家庭に向けて発信し、協力関係を築く。